

市民文芸

教室紹介

多久スポーツピア

多久ランニングクラブ



「パワフルで明るく元気」と慕われる小川監督（後列左）と、「自己ベストを出したり、練習メニューをこなした後の充実感がたまらない」と話すメンバー

市内の中学生
会員募集中!!

一緒に走る楽しさを感じ、可能性へ挑戦しましょう

中学生を対象としたランニングクラブが今年度、多久スポーツピアに誕生しました。佐賀県の陸上界で若手指導者として知られ、都道府県対抗女子駅伝コーチも務められる中央中の小川朋子教諭を監督に、競技力向上でアスリートを目指したトレーニングが始動しています。市内の中学校には陸上部がなく、整った練習

メニューで上達を望む生徒や保護者の声で活動が実現。現在は、九州大会出場、そして優勝を目指す中央中1年生が練習に励んでいます。地域のスポーツクラブなので、市内の中学生会員の参加も募集中で、練習は、火～金曜が17:00～、土・日曜は8:30～の約2時間。場所は、多久市陸上競技場です。

■入会申し込みなど問い合わせは... スポーツピア事務局 ☎75-2225

短歌

老いと死を無常の風に揉まれつつ後につらなる若きら案ず

出でくれば小雨となる日夫と来て 購ふいちこの弥生は甘き

深みゆく 齢を日毎に覚えて 仏間の花替え 安らぎてをり

わが家の男孫三人の性格はおっとり 生真面目 臨機応変

もういちど 個展したきという声の聞こえ来 純白の葬の花から

内田 龍子
栗原 瑛子
田淵ミチ子
福島那智子
尾形 節子

《麦の芽短歌会 五選》

No. 146 人権教育 生きる

「ホタル」

今年もホタルが飛び交う季節になりました。6月の中旬位までが見頃でしょうか。幻想的な淡い黄緑色の光がすーっと飛び交う様子はとても心が和みます。

そのように私たちを楽しませてくれるホタルですが、私は知覧特攻隊の「ホタル」の話思い出します。映画や本で紹介されたこのエピソードは、昭和二十年、特攻隊員の宮川軍曹（二十歳）が、出撃の前夜に「おばちゃん、死んだらまたおばちゃんのところへ、ホタルになって

帰ってくる」と言い残して鹿児島島の知覧基地から出撃していききました。そしてその夜。「あ、ホタルだ、ほんとに宮川さんが帰ってきてくれたんだ・・・」一匹のホタルが、母のように慕っていたおばちゃんの食堂にすーっと入ってきたのです。

私たちは、この平和な毎日を当たり前のように過ごしていますが、こうして命がここに暮らせているのも、そして命がここにあることも全部、命をかけて守ってくださった方々の歴史があるからです。

「戦争は最大の人権侵害」と言われています。今も世界のあちこちから尊い命が奪われています。かけがえない命、未来へと繋いでいかなければならない命を、この「ホタル」を通して想います。

社会教育指導員 野中久美子

俳句

身になかなふ程に歩いて春惜しむ

春立つやいのち充ちくる野の小径

ふるさとの訛嬉しき花見客

背に負ひて花見帰りの孫重し

ベン忘れ眼鏡を探す日の永し

不二見恵美子
今泉 節子
野田キヌ子
大坪 蒙仁
松尾 孤杖

《楷樹句会 五選》

川柳

一人旅美女と混浴する足湯

行楽地いったつもりで食事する

今の世のメカの速さに置いてかれ

改憲論顔を出したりかくれたり

鯉のぼり親の期待が空に舞う

松下 修
古賀ちひろ
猪ノ口昭子
大谷 和
西山 残月

《多久川柳会 五選》